

着衣着火について

着衣着火とは、調理中のこんろの火が袖口に燃え移るなど、何らかの火が着ている服に着火した火災をいい、鹿児島市では過去5年間に**10件発生**しております。そこで、今回は、「**着衣着火**」についてお伝えします。

火災の内容

居住者の方が、やかんでお湯を沸かそうとしたところ、**こんろの火が袖口**につき、左腕から背中にかけてやけどを負ったものです。

火災現場の写真

【こんろ火が着火した衣服】



着衣着火について

着衣着火の原因は、「**こんろ火**」、「**ローソク火**」、「**たき火**」などです。

火を使う場面では、常に着衣着火の危険性が潜んでいることを認識しましょう。

着衣着火を防ぐために！！

- ・火を扱うときは、袖や裾が広がっている服は着火しやすいので避ける。
- ・ガスこんろの火加減は鍋などの底から炎がはみ出さないよう適切な火力にする。
- ・火に当たっていなくても、火から放射される熱により衣類等に火がつくので注意する。

ストップ！ ドロップ＆ロール！

もし、衣類に火がついてしまったら・・・

- 1. ストップ！（止まって）** 火を大きくしないために、その場に止まる。
- 2. ドロップ（倒れて）** 頭などに燃え広がらないよう、地面に倒れる。
- 3. ロール！（転がって）** 顔を抑えながら、左右に転がって火災を消火する。